

卷頭言

学習評価の改善

数学部会長 太田 恭正

令和元年6月に開催された千葉県高等学校教育研究会数学部会総会におきまして、上市善章先生の後任として部会長を務めることになりました千葉県立柏高等学校の太田恭正です。千葉県高等学校数学教育の発展に向け、少しでも貢献できるよう、微力ではありますが、精一杯頑張りますので、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

令和元年11月19日(火)に、例年、秋に行われている数学部会秋季研究大会を兼ねた形で、第74回関東甲信静数学教育研究千葉大会が行われました。テーマは「数学的活動を通して未来を拓く算数・数学教育」で、参加者は931名と聞いております。上市前部会長には、大会副実行委員長として尽力していただきました。全体会の会場は千葉市民会館でした。東京大学大学院情報理工学系研究科創造情報学専攻特任研究員である宮地力先生の「スポーツを分析的にみる」という記念講演は、とても魅力的な内容でした。数学の有用性を生徒に伝えていく立場の我々にとって、数学が様々な場面で活用されていることを確認できる、よい機会となりました。分科会は千葉市立千葉高校で行われました。会場を快く引き受けていただいた同校の校長先生に、また、授業を公開してくれた同校の数学の先生方に感謝申し上げます。分科会各分野でのすばらしい発表、質疑の様子を見て、参加者が今後に生かすことのできる研修の場になったものと確信しています。大成功を収めることができた理由を考えると、「何年も前から綿密な準備が進められたこと」、「数学部会役員がそれぞれの役割分担を確認し、完璧な仕事をこなしたこと」、さらに、「県内の多くの先生方が、さまざまな形で運営に携わってくれたこと」が挙げられると思います。改めて、数学部会という組織の結束力の強さを感じるとともに、数学の先生方一人一人の持つ能力の高さを実感しております。数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」は、昭和39年の発刊以来、数学教育全般にわたる啓発活動、先進的な研究や授業改善に向けた取組等を広く紹介し続け、今回の第57号は、第74回関東甲信静数学教育研究千葉大会の特集号となります。

さて、どの高等学校も新学習指導要領に対応した教育課程の編成作業を行っていることと思います。新学習指導要領の総則には、指導と評価の一体化の必要性が明確化されており、8月の教育課程研究協議会では、学習指導課小山指導主事から「学習評価の改善について」の説明がありました。学習評価の改善の基本的な方向性として、①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の授業改善につながるものにしていくこと、③これまでの慣行でも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと、が挙げられていました。観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現等」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。高等学校における観点別学習状況の評価の更なる充実とその質を高めることが求められています。本部会でも、学習評価の改善について、検討する機会を設けていきたいと考えています。